

学童保育シンポジウム報告

2018.11.11 与野本町コミュニティセンター

さる11月11日、与野本町コミュニティセンターにて連絡協議会初の試みとなるシンポジウムが開催された。今回のシンポジウムではテーマとして「これからのさいたま市の学童保育を考える」が掲げられた。さいたま市の民間学童保育では、壊滅的な人手不足や、分離移転に際しての多大な保護者負担が問題点として取り上げられながらも、大きな改善が見られないままとなっている。今回のシンポジウムでは、さいたま市議会のすべての会派に出席を依頼し、今後のさいたま市の学童保育施策をどう進めるべきだと考えているのか、意見を聞くことを目的とした。

当初の予定では、清水市長に出席を依頼し、今後の学童保育をどのように展開していくのか市長の見解を聞いた上でのシンポジウムを企画していたが、残念ながら実現できなかった。また、11月は各地域でもイベントが開催される月ということで多くの方に来ていただくのが難しいかと心配されたが、会場がいっぱいとなる176名の方に出席をいただくことができた。

当日は会長の西田からさいたま市の実状と問題点、続いて衆議院議員の牧原ひでき議員から国の施策における学童保育の位置づけについて提起が行われた。休憩時間を挟んで後半の部では市議会各会派の代表から「人手不足（処遇改善）」「施設確保」「障がい児保育への支援」の3つのテーマについて、それぞれ今後どのようにさいたま市の施策を進めていくべきなのか、という視点で意見を述べていただいた。

全体的にはどのテーマについても行政の支援の手が足りないことが共通の課題であり、議員の立場からも議会を通して現状を行政に伝え、改善に向けて声を上げ続けることが意見として挙げられた。

また、会場の多目的ホールの壁面には各クラブで取り組んでもらった「よかった探し」を、会場前の廊下展示スペースでは「あったらいいな」と思うことを葉っぱに書いて集めた、大きなねがいの木が展示された。今回初めてとなる「あったら



今後このような企画の際にはぜひ市からも出席をお願いしたいところである。

また、当日の運営面では初めての試みだったことや最低限のスタッフでの運営を目指した結果、会場での案内の不備や、議員との連絡の不十分さなど反省の残るところとなった。来年以降同様の試みを行う際には改善していきたいと考えている。

参加議員一覧

衆議院 牧原
村井（代理）
市議会議員
立憲国民無所属 小川 西山
自民党 伊藤
自民真政 稲川 井原 金井
渋谷 新藤
共産党 久保 戸島

（無所属 川村）

敬称略

いいな」では、学童に対する保護者のごく率直な意見が見られ、参加した議員が展示を前にし、興味深く眺める様子やメモを取っている姿も見られた。

アンケートでよせられた意見は、幸い、内容に関して好意的な意見が大半であった。さいたま市の学童保育についての実情と議員の考えが分かって非常に有意義だったという声とともに、なぜさいたま市の施策が進まないのか、市の立場からの声が聞きたいという声が多く、

議員さんと考える

学童保育シンポジウム

～これからのさいたま市の学童保育～

日時 平成30年11月11日(日) 13:30～16:00 (開場1300)

場所 与野本町コミュニティセンター

**これから学童保育はどうなる？
どんな支援が必要なの？**

よかった探し
＆
あったらいいな探し
展示します

さいたま市には民設の放課後児童クラブ（＝学童保育）が175か所あり、市の委託を受けてクラブを運営しています。これからのさいたま市にどんな「学童保育」が必要で、そのためにどんな施策が必要になるのでしょうか。さいたま市議会各会派の議員さん達のお話を聞きながら、これからの学童保育のあり方について皆さんと考えてみたいと思います。

◇開会・オープニング
◇国会議員あいさつ
◇立憲・国民・無所属の会 自由民主党
公明党 自民党真政 日本共産党
各会派代表の議員の方によるシンポジウム
(発言者は随時更新です。当日変更になる場合があります。)

**保育室あります！
当日会場で受付**

主催：さいたま市学童保育連絡協議会

電話：048-840-0962
FAX：048-840-0963
E-mail:gakudous@yahoo.co.jp

当日の議員の発言は裏面 ⇒

シンポジウム 議員発言要旨

今回のシンポジウムでは、あらかじめ議員さんに処遇改善・施設問題（待機児童）・障がい児支援の3つのテーマで、今後さいたま市でどのような施策の展開が必要だと考えているか発言をお願いしました。以下に当日の発言をまとめました。

◎処遇改善について

小川議員	議会でも処遇改善費の満額申請については再三討議がされているが、市としての回答は「様々なメニューを財政負担を考慮しながら最大限活用したい」としており、毎年少しずつの改善がされているのは確か。何を優先的に要求していくべきなのか相談していきたい。
伊藤議員	最終的には補助金を増やすしかない。 保護者の安心は子どもが安全に過ごせること。優秀な人材を確保することが必要。 さいたま市は国の政策にのって人材確保のためにお金を出す必要がある
井原議員	保育園と学童の大きな違いは保育時間の違い。学童は短い。日中はチャレンジスクールなど別の仕事で専門性を発揮してもらう必要がある。 また、さいたま市は都内に通勤している方が多い状況で保育時間が圧迫していると考えられるので、さいたま市なりの補助制度が必要ではないかと考えている。
戸島議員	公立の職員は176人のうち35人が年度途中で退職している。（離職率は30% 指導員の体制が子どもの保育を保証している。処遇は大幅に改善されるべき。 国の処遇改善費の満額申請を実現したい。

◎施設問題(待機児童)について

小川議員	できるだけ公共施設の中に学童を優先すること、施設探しの段階から市がサポートできる体制を整備すること、小学校の空き教室利用を推進していくこと。この3つを進めていきたいと考えている。
伊藤議員	近年、民間の不動産会社や建設会社などが学童施設を建設して、建て貸しという形で保護者会と連携するというアプローチがあると聞いている。行政だけでなく民間の事業者も含め、学童保育のできる場所を確保していくことが重要ではないかと思っている。
井原議員	今後、複合施設という視点が重要になってくる。校舎内施設もそうだが、平成30年に都市公園法が改正され、公園内にも着目している。地域の中に学童が位置付けられるよう、条例を作ったり制度を整備していくことが議会の仕事だと考えている。
戸島議員	公立も民間も同じ委託事業で、施設についても行政が責任を持って公設率100%を目指して整備していくことが必要。 校内施設の整備については、市の数値目標をさらに拡大していくことが必要。 もう一点は、公共施設、市有地の活用をするという視点があるが、市としては複合施設で整備を進めていくという方針があるので、方針の転換が必要だと考えている。

◎障がい児支援について

小川議員	現状、巡回相談が非常に必要とされている状況。 田村さんに替わる人材を探していくことと、ご本人が望むのであれば来年以降も何らかの形でさいたま市に関われる形を考えていきたい。
伊藤議員	障がい児受け入れのための研修制度を充実させること。 巡回相談にあたる職員の増員が必要。 支援級の先生との連携が不足しているのではないかという思いもあり、教育委員会から学童へ手を差し伸べていくことが必要ではないか。
井原議員	巡回相談の拡大と受け入れ推進については提案している。 学童単独で対応するだけでなく、放課後デイサービスの活用や、教育委員会と連携をしながら市全体としての支援体制を強化していく必要がある。
戸島議員	学童保育自体が大規模化しており、保育環境と指導員の配置状況を改善し、整えることが受け入れにつながる。 指導員の障害児保育についての研修を重ね、専門性を向上させ、それに伴って加配単価も充実させていく必要がある。 障害児の巡回相談の体制が不足しており、増員が必要。

◎テーマ外(フリースクール枠)

小川議員	担当課の皆さんは非常に努力をされているのは市連協の皆さんもご存知のことと思う。 この先は選挙を通じて民意を伝えていかなければならないと思う。 市議会選挙、市長選挙の折に、争点として今後の学童保育のあり方がどうかというところが上がるよう大きな声を上げて、政治を動かしていただきたい
伊藤議員	保育園の形はある程度整ってきたが、一方で学童が完全に取り残されており、ここをシフトしていかなくていけない。いい施設といい人材を確保することが両輪であるので、今後も皆さんと検討を重ねていきたい。
井原議員	これからの社会、女性が活躍していくためにはより一層保育園、学童が重要になってくる。 限られた財源の中でやっていくためには、学童専門の指導員としてでなく、他の事業と同時に担当することで他の処遇改善費も当てていけるのではないかと考えている。
戸島議員	今まで、さいたま市は国庫補助を積極的に活用しながら市の政策を進めてきた。 処遇改善費、施設整備費など、国がやると決めたことについては市でも実施してもらえるよう声を上げていきたい。

基準の参酌化で 支援員の資格と配置がピンチ！

今年度、全国連協の呼びかけで 21 年ぶりの請願署名活動に取り組みましたが・・・。

残念ながら今、私たちが危惧していた通り指導員の資格と配置の最低基準が失われようとしています。



Q.そもそも「参酌化」ってなんですか？

A.国が支援員の資格と配置の基準を下げようとしています。

現在、国の決まりでクラブごとに「2 人以上」の支援員を置くというのが 今は

「従うべき基準」＝ 守らないとダメ となっていますが、これを



「参酌基準」＝ 参考にするくらいで守らなくてもいいモノ

にしようとしています。これは大変なことです。



Q.参酌化されると何がどう変わるの？

A.クラブから資格を持った支援員がいなくなる可能性があります。

「資格をもった支援員の 2 名配置」を守らなくてもいいよ、と変わるということなので…

「求人出しても人が来ないから資格者一人で OK なルールにしよう」
「うちの市は資格のある人置かなくてもいいことにしよう」



市町村

…ということを、市町村で決めてもいいことになってしまいます。

今は資格をもった支援員が複数配置され、子どもが安心して放課後を送れるよう支援していますが、

資格のない大人がたった一人で数十人の保育をしても条例違反にならない

…という状況が現実起きる可能性があります。

そうなれば私たちが大事にしてきた学童保育の生活が根底から崩されることになります。



Q.具体的に何が大変なの？

A.子どもの安心・安全が守れなくなります。

現在は資格を持ち、専門知識と技術をもったプロの支援員が複数配置されています。

遊びや生活を通して子どもを共感的に理解すること。

子どもの願いや思いを受け止め、その子が今必要としている支援の手を差し伸べること。

そうすることで本当の意味で子どもが安心して過ごせるよう、日々努力を重ねています。

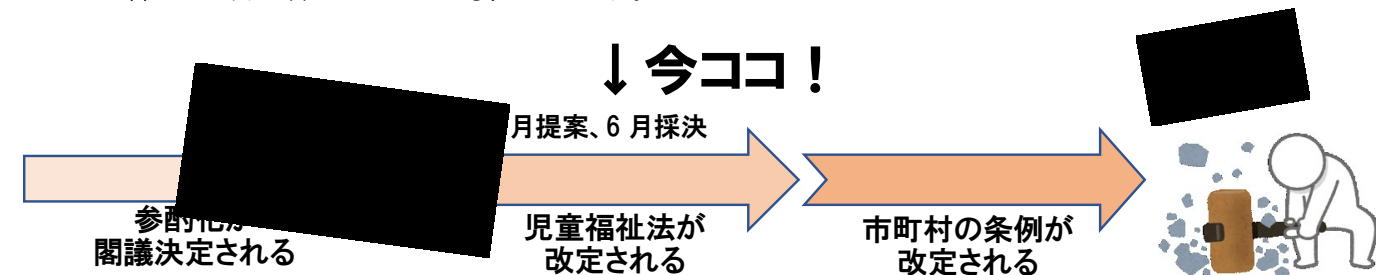
しかし支援員の資格と配置がないがしろにされれば、

私たちが日々大事にしてきた学童が失われることになります。

★参酌化が現実となるまでの段階を知って、その時々可能な活動を！

この流れが実際に私たちの学童に及ぶまでに、次のような 3 つの段階があります。

逆に考えれば崩壊を食い止めるための堤防が 3 つあるととらえることができますので、この 3 つの堤防を守るために皆さんで力を合わせていく必要があります。



ROUND1
内閣府と厚労省へ
思いを伝える

**★クラブから意見
書を厚労省へ
FAX しましょう。**

ROUND2
全国連協で 100 万
国会請願署名

基準の変更には児童福祉法
の改定が必要なので、閣議決
定後に児童福祉法の改定案が
提出、国会にかけられます。

ROUND3
自治体の条例を
変えさせない

国の基準が緩くなっても最
終的に市町村が配置を決める
ので、市が基準を維持する判
断をすれば食い止めることがで
きます。

残念ながらラウンド 1 は基準の参酌化が閣議決定されてしまう形で終了してしまいましたが、全国の署名活動や対行政・議員への働きかけなどまだまだできることがあります。保護者会などで話をして、一人一人が問題意識をもってその後の署名活動などに取り組んでもらえればと思います。

**子どもたちの笑顔と、安心して
生活できる学童を守ろう！**



学童保育の「国の最低基準を廃止」する、 歴史への逆行に対して、断固とした反対を表明します。

2018.11.28 さいたま市学童保育指導員労働組合

厚生労働省は11月19日、地方分権改革有識者会議において、放課後児童クラブの配置基準と資格要件について「従うべき基準」から「参酌すべき基準」とすると表明しました。そして記者会見した根本厚生労働大臣は正式には、「年末の閣議決定に向けて、与党などと相談しながら適切に対応したい」としています。

これは、全国の学童保育の関係者が約50年の年月をかけて、やっと2015年に「放課後児童支援員」という国家資格と、1支援の単位に2名以上の配置という、全国一律の「最低基準」を確立してきた、その歴史にたいする逆行です。

私たち、さいたま市学童保育指導員労働組合は、学童保育の『国の最低基準を廃止』する、歴史への逆行に対して、断固とした反対を表明します。

学童保育の確立と拡充を図っていくために、次の事を求めます。

- 1.国は、子どもたちの安全で健やかな放課後の生活を保障するために、学童保育の「従うべき基準」を堅持するとともに、その拡大を図るべきです。
- 2.根本原因である「人手不足」を本当に解消するには、しっかりとした国家資格の確立とそれに見合う処遇改善をすすめることが必要です。
 - 2-① 放課後児童支援員を、「学童保育士」として、国家資格を確立していくこと。
 - 2-② 全国で2割の自治体に留まる処遇改善費を、すべての自治体に適用できるように職員への処遇改善にしか使えない縛りをかけたくて、国の財源負担を100%にすること
補助金にとどめることなく、事業費の本体の経費に組み込むこと
 - 2-③ 国予算の基本分算定を現状の常勤1名(310万)+非常勤2名(180万×2)から、常勤2名、3名へ拡充していくこと

以上、決議する。

厚生労働省 内閣府 全国知事会 全国市長会 全国町村長会
内閣府地方分権改革会議 国の各政党 へ送付します。

学童保育の質 守れるか



共働きやひとり親家庭の小学生が放課後を過ごす放課後児童クラブ（学童保育）について、政府は11月、指導員の配置基準や資格要件の拘束力をなくす方針を示した。学童保育は長年全国一律の基準がなかったが、2015年に始まった新しい子育て支援制度によって基準が適用され始めたばかり。保育の質向上に取り組もうとしている関係者からは政府方針に疑問の声が上がる。

(小林由比)

「おかえり」「手は洗った?」。さいたま市大宮区の東小学童保育所。低学年の子どもたちが帰ってきて、部屋は一気ににぎやかになった。指導員たちはまず、子どもたちの宿題に付き合う。教科書の音読は一人一人に耳を傾け、計算プリントは丸付けも。「これ教えて」「ねえねえ聞いて」。四、五人の子に一人の指導員が付いていても、引っぱりだこで忙しい。同学童は一日平均七十人ほどが利用。部屋は二つあり、常時九人以上の指導員で目を配る。指導員の佐藤正美さんは「トラブルが起きれば一人はかりきりになるし、常に全体を見ている人も必要。外遊びがしたい子も、室内でのんびり過ごしたい子もいる。指導員が少なければ『待って』ばかりで、学童保育の指導員に見てもらいながら宿題をする子どもたち。さいたま市大宮区で

基準緩和の議論は昨年八月、内閣府の地方分権改革有識者会議の専門部会で始まった。全国知事会、全国市長会、全国町村会の地方三団体が「人員確保が難しい」と、基準見直しを求めたのを受けて開いた。議論では地方の「裁量」を求める声が強調された。これに対し、基準維持を求める全国学童保育連絡協議会は「子どもたちの命と安全を守るため、学童保育の目的や役割を理解している

「目的や役割理解する メンバーで議論を」

メンバーで議論すべきだ」と訴えてきた。四年前の基準策定に関わった淑徳大の柏女霊峰教授(子ども家庭福祉学)は「基準は、子どもの発達に重要な役割を果たす学童保育の質を担保するために設けた。地方分権の議論とは別のものだ」と指摘。「資格研修を受けるのが難しいなど地域の課題があるなら、そこをどう工夫するかをきちんと議論すべきなのではないか」と苦言を呈する。

「放課後の子どもたちの居場所がほしい」という地域の声を受けて始まった学童保育。運営形態や規模などが地域でまちまちのため、長く全国一律の基準すらなかった。しかし共働き世帯の増加でニーズは高まり、各地に広がっていった。四年前には、「一カ所(約四十人)につき(指導員)二人以上」の配置基準が定められた。うち一人の指導員は保育士などの資格者などで、かつ都道府県の研修を受けた「放課後児童支援員」であることが義務化された。

しかし一部の自治体から、人員確保の難しさなどを理由に要件の緩和を求め、声が上がった。国も「地域の実情に合わせて質を担保することも可能」として拘束力のない参考基準とするよう方針を転換した。佐藤さんは「基準がようやくできたことで、より良い研修のあり方を考えるなど、保育の質を高める機運が高まってきたのに」と残念がると話す。

指導員の基準緩和に不安の声

指導員歴三十年の佐藤さん。学校の先生や親には言えない気持ちを学童では話してくれる子がいたり、乱暴な行動が目立っていた子が、指導員たちの適切な関わりによって我慢できるようになったりする姿を見てきた。一方で、待遇の低さなどを理由に指導員の人れ替わりは激しい。「指導員は、子どもたちの成長、発達を支える専門性のある仕事である」ことを社会に理解してもらい、それに見合った待遇が確保されなければ人手不足は解消できない」と話す。

『心に余裕の持てる職場で、よい保育を』



今年度『指導員を支える委員会』では、ストレスチェックと共に、指導員ならではのストレスの原因を探るべくアンケートを実施しました。また、そのアンケートの中で、どうしたらそのストレスがなくなるのか、解決策についても広くアイデアを求めました。

そして、2012年に当委員会の前身である『安心安全委員会』が実施したアンケートの内容と今年度のものを比較した結果、子どもからの暴力を訴える人が大きく減っていることがわかりました。その分、増えていたのが『人手不足で休めないこと』と『人間関係の悩み』でした。

指導員が十分に休むことができずにいると心に余裕が持てなくなり、怒らなくてもいいようなことで子どもを叱ってしまったりと、保育の質の低下を招いてしまいます。保育の質が低下していけば保護者からの信頼も崩れてしまい、処遇も十分ではない中でモチベーションが保てずに「やってられない」と指導員が退職していく。退職した指導員の穴を埋めるのは残された指導員です。

この悪循環を防ぐためには何が必要なのか。処遇の改善はもちろんですが『指導員を支える委員会』では指導員の心の余裕に目を向け、よい保育につなげることを目的に提言を作りました。



1. ちゃんと休める職場

現在、正規指導員・パート共に人手不足の状況が続いており、保育体制の取れない中で現場の指導員達に大きく負担がかかっています。アンケートからは「自分が休んでしまうと残された指導員に申し訳ない」また「自分のいない間の保育が心配で休めない」という声も聞こえてきました。

しかしながら、誰かがいなくては回らない職場というのは健全ではありません。特定の個人に仕事や責任が集中することもよい職場とは言えません。新人・パート指導員を育て、自分がいなくても回る職場を作り上げていくことも正規指導員の仕事です。

とはいえ、現在の余裕のなさは人手不足によるところが大きく、休みたくても配置基準を満たす人員が配置できないから休めない状況である可能性が高いと思われます。

人員の確保は指導員の責任ではありません。運営者ひいては委託している行政の責任です。運営者として「募集しても人がこないから仕方ない」では、結果指導員はすり減り退職し、子どもを預ける場もなくなってしまうです。

指導員への提言

- ◇自分が休んでも職場が機能するような仕事の分担と土台作り。
- ◇労働者の権利として有給休暇100%消化を目指す。

運営者への提言

- ◇職員の有給取得時にも配置基準を満たせるよう、人員を確保する。
- ◇指導員の有給100%取得のために必要な代替パートの費用を予算化する。

2. 信頼・協力・共有しあえる職場

保育の場では簡単に答えの出せない問題が日々起こり、指導員は頭を悩ませます。一人でその悩みを抱え込むのは指導員にとっても子どもにとってもよくありません。パート指導員も含めた多くの視点で子どもを見ていくことが大切です。

子どもを前にする時、正規もパートも関係ありません。今回のアンケートからパート指導員の多くが保育に関する悩みを持っていることが見えてきましたが、なかには、子どもが下校してくる時間に合わせてパート指導員の出勤時間が設定され、子どもの話をする時間が十分に確保されていないクラブもあるようです。一人で抱え込まずに職員全体で悩みを共有し、チームとして連携して保育にあたるためには日常的に話し合える時間が必須です。

また発達障害児の支援などにおいては、必要な知識がなくては子どもを支えていくことが困難な場合もあります。専門的な知識がないことによって、怒らなくていい子どもを怒ってしまっている、子どもも保護者も指導員も辛いままになってしまいます。

現在、行政や指導員会、連絡協議会などが実施している多くの研修にパート指導員も参加することで、より温かい目をもって子どもを見られるようになります。

指導員への提言

- ◇正規・パートを含め、子どもの共通理解を深めるチームワークづくり。
- ◇そのための定期的な職員会議の開催。
- ◇パートも対象とした研修づくり。

運営者への提言

- ◇パートの研修・会議・う合わせの時間の確保、保証。
- ◇パートの研修にかかる費用の予算化。

3. 保護者と指導員が支えあう、温かい学童保育運営

保護者会運営の学童保育は、保護者は利用者であると同時に運営者でもあります。現状では運営をするのは保護者集団の責任です。子どもを預けっぱなしになっていないか、本来運営者の担わなければならない役割を指導員に肩代わりさせていないか、見つめなおしてみることも必要です。

指導員は保護者に雇われる雇用者であり、仕事として働く保護者を支えると同時に、学童をよくしていくために運営にも関わります。現場からでないと見えない保育環境の整備などについて発信し、いい学童を作るために保護者と協力しあっていきます。

保護者だけでも、指導員だけでも学童保育を維持することはできません。保護者と指導員が支えあい、温かい学童保育を作りましょう。

指導員への提言

- ◇指導員は保育で働く保護者を支え、保育者の視点から運営に関わる。

保護者への提言

- ◇保護者は運営に責任を持ち、指導員が保育に専念できるように配慮する。

2017年12月実施「指導員の困りごと・悩みに関するアンケート」集計結果

資料③-2

回答数 経験年数 1年未満-49名 2年目-40名 3～5年-50名 6年目以上-59名 無回答-2名 合計200名
(パート指導員)
(週4日以上勤務-77名 週3日以上勤務-81名 週2日以下勤務-42名 合計200名)

質問1. 子どもとの関わりで困っている事、悩んでいる事、不安なことは何ですか?最大3つまでえらんでください。

- 1 どこまで踏み込んでよいか分からない-66名
- 2 高学年の対応-45名
- 3 子どもへの対応に自信がもてない-43名
- 4 暴言を受ける-36名
- 5 関わる時間が足りない-27名
- 6 伝え方が分からない-22名
- 6 障がいのある子どもの対応-22名
- 6 家庭環境が把握できない-22名
- 9 ない-19名
- 10 気持ちが子どもに届かない-18名
- 11 暴力を受ける-16名
- 12 馬鹿にされる-12名
- 13 無視される-10名
- 14 子どもの気持ちが分からない-8名
- 15 保護者の目を気にした保育になっている-5名
- 16 陰口を言われる-2名

自由記述
・子どもの人数が多すぎて、納得のいく支援がしにくい。
・ケンカの仲裁の仕方が分からない。
・言える相手だと思って毒々し言葉を吐くのだと思うが、言われると良い気持ちはしない。
・正規指導員の目を気にした保育になっている。
・子どもにつきケースバイケース。特に指導もないので戸惑う。
・グレーゾーンの子どもの対応。
・無口な子どもへの対応
・低学年の対応。
・自らの力量不足で、子どもの心を捉えきれていない。

質問2. 保護者との関わりで困っている事、悩んでいる事、不安なことは何ですか?最大3つまでえらんでください。

- 1 トラブル時の伝え方、関わり方-44名
- 2 ない-42名
- 3 日々の伝え方、関わり方-41名
- 4 関わる時間が足りない-37名
- 5 どこまで要求に応じるか-34名
- 6 保護者への対応に自信が持てない-25名
- 7 家庭の方針との食い違い-23名
- 8 どう見られているか不安-17名
- 9 お迎えに来られない保護者との関わり方-14名
- 10 指導員の仕事への理解不足-11名
- 11 軽んじられている-8名
- 12 保護者の気持ちが分からない-7名
- 13 気持ちが保護者に届かない-3名
- 14 責められる-1名
- 14 就労支援の仕方が分からない-1名

自由記述
・パートなので、懇談会などに出ておらず、保護者の方針・考え方など、つかみきれない。
・保護者対応はしない。

質問3. 指導員同士(パート・正規含む)の関わりで困っている事、悩んでいる事、不安なことは何ですか?最大3つまでえらんでください。

- 1 ない-75名
- 2 職員会議等、情報交換の時間が足りない-48名
- 3 聞いていない事、知らない事が多い-37名
- 4 考え方に違いがあり過ぎる-30名
- 5 仕事の整理・役割分担が出来ていない-24名
- 6 チームワークが取れない-15名
- 7 話しかけにくい-13名
- 8 提案を受け入れて貰えない-10名
- 9 悩みを相談できる相手がいない-9名
- 9 気持ちが伝わらない-9名
- 11 答えてもらえない、教えてもらえない-4人
- 11 新人さんの育て方が分からない-4名
- 13 意見を言えない-3名

自由記述
・どこまで責任をもてばよいのか分からない。
・正規とパートでの情報量が違う。
そのため子どもの事が理解できない事がある。
・年配と若手の間がギクシャクしている。
・正規同士の仲が悪くパートへの負担が大きい。
・上に立つ人が未熟で困る。
・表面的には穏やかだが、少人数なので気を使う面も多い
・このアンケートの結果も知らせてもらえない。

質問4. 労働条件・運営体制で困っている事、悩んでいる事、不安なことは何ですか?最大3つまでえらんでください。

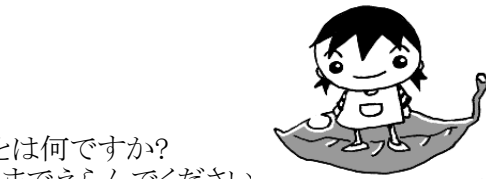
- 1 人手不足-72名
- 2 給与が低い-53名
- 3 ない-40名
- 4 施設の不備や不足-39名
- 5 児童数が多い-30名
- 6 年度が変わるごとの変化-16名
- 7 労働時間が短い-14名
- 8 制度や組織が分からない-13名
- 8 運営者との温度差-13名
- 10 責任が重すぎる-11名
- 11 処遇面が将来的に不安-10名
- 12 勤務日数が少ない-7名
- 12 サービス残業が多い-7名
- 14 指導者や管理者がいない-6名
- 14 希望の休みが取れない-6名
- 16 保育以外の業務が多い-5名
- 17 会議が少ない-4名
- 18 休みが取れない-3名
- 18 指導や管理をされ過ぎる-3名
- 20 休日出勤が多い-1名
- 20 会議が多い-1名

自由記述
・来年度の児童数が増加することの不安。
・運営者が何を考えて人事異動などしているのかわからない。
・給与が低い割に責任が重い。
・男性の指導員がいない。力仕事が大変。
・兄弟学童の在り方がわからない。
・人手不足と、そうでない時の差がありすぎる。週30Hのときもあれば、週5Hのときもある。収入が安定しない。
・普段は週3日、1日2～5H。長期休み期間は週5日、1日6～7Hと差が大きすぎて体力的に辛い。

質問5. 研修や指導員ブロックに関して困っている事、悩んでいる事、不安なことは何ですか?最大3つまでえらんでください。

- 1 ない-91名・・・多くの人が「参加していないのでわからない」としている。
- 2 出られる研修がない-9名
- 2 内容に不足を感じる-9名
- 4 制度や組織が分からない-7名
- 5 研修の回数が少ない-4名
- 5 発言を求められる事が負担-4人
- 7 研修の回数が多い-3名
- 7 移動が負担-3名
- 9 実践記録を書くことが非常に負担-2名
- 9 勤務扱いにならない-2名
- 9 保育準備が出来ない-2名
- 9 研修が重複する-2名
- 13 代休が取れない-1名
- 13 内容が難しい-1名

自由記述
・研修や講演を開きに行く機会がもっと増えたら良いと思う。
・組織が複雑で一本の線になっていない。
・詳しい話が聞けないのが不満。
・障害児の研修を受けてみたい。
対応の仕方が分からなく、困ることが多く、疲れてしまう。
・研修に参加できる定員が少ない。
・パート(補助)指導員向けの研修を行って欲しい。
・研修に参加して学童のあり方を勉強させて頂きたい。



市連協加盟クラブ運営者の方へ

さいたま市学童保育連絡協議会
指導員を支える委員会

パート指導員対象講習会開催のお知らせ

このたび連絡協議会の指導員を支える委員会では、パート指導員を対象にした研修と、他クラブのパート指導員同士の実態交流を行う「パート指導員のための実例講習会」を実施することとなりました。つきましては講習会チラシを添付させていただきましたので、各運営体のパート指導員の方へ講習会開催の通知と、参加を奨励していただけるようお願いいたします。

委員会では昨年度実施した「指導員の困りごとアンケート」をもとに、指導員が長く働き続けることのできる職場づくりについて検討を重ねてきました。回答の中からはパート指導員が子どもの対応に悩む声や、自分の保育について意見交換できる機会を求める声が多く、現場の指導員の抱える課題や困難の解決につながるような取り組みとして今回の講習会を開催する運びとなったものです。

なお、連絡協議会では講習会参加を促すため、勤務時間として受講できるよう、時給の一部を補填する目的で参加者一人当たり 1000 円と交通費を支給させていただきたいと考えております。講習会が終了したのち、法人宛に振り込む形をとらせていただきたいと思いますので、参加の実績があった場合、後日詳細について連絡させていただきます。

日時・場所：2月15日（金）10:00～11:30 与野本町コミュニティセンター
2月15日（金）14:00～15:30 与野本町コミュニティセンター
2月16日（土）14:00～15:30 さいたま市産業文化センター

※全日程とも同内容で開催いたします。

内容：学童保育指導員 基礎研修（講義）
事例交流

※添付のチラシは後日各クラブへも FAX 送信させていただきますが、パート指導員の方のお手元に届くようご配慮いただけますようお願いいたします。

さいたま市学童保育連絡協議会
Tel:048-840-0962 / FAX：048-840-0963

主催 さいたま市学層保育連絡協議会 指導員を支える委員会



元・さいたま市の指導員による学童保育の基礎講習と、他クラブのパートさんとの交流の時間を用意しています。パートとして学童保育で働くうえで日々感じている困りごとや、疑問の解決につながるヒントを学べる講習会です。

★3 コースとも同じ内容で行います。先着 20 名程度。

① 2月15日（金） 10:00～11:30 与野本町コミュニティセンター
② 2月15日（金） 14:00～15:30 さいたま市中央区本町東 3-5-43

③ 2月16日（土） 14:00～15:30 さいたま市産業文化センター
さいたま市中央区下落合 5-4-3

2/8(金)までに FAX で下記へお申し込みください。

申 込	クラブ名	
	参加者氏名	
	希望コース	
		申込先：FAX 048-840-0963

お問い合わせは… さいたま市学童保育連絡協議会

TEL：048-840-0962 Mail：gakudous@yahoo.co.jp